

## 第4回郡上市総合計画審議会 要録

- 【開催日時】 令和3年6月28日（月）13：30～15：30  
【開催場所】 八幡防災センター研修室  
【出席者】 委員：別添出欠名簿のとおり（出席19名、欠席11名）  
事務局：市長公室長 日置 美晴、企画課長 入木田 瑞樹  
政策推進課長 永瀬 浩臣、企画課長補佐 高田 和範  
企画課長補佐 鷲見 一久

進行：企画課長

1. 開会 13：30

2. あいさつ

※上村会長

※日置市長公室長

3. 協議事項

（1）第2次郡上市総合計画（改訂）案について

会長：事務局より説明を求める。

事務局：第2次郡上市総合計画（改訂）案について、前回からの主な変更点等について説明  
（課長補佐）

※基本目標6について政策推進課長より説明

会長：修正された計画(案)について意見を求める。

委員：目標6の地域振興について、7地域それぞれキャッチフレーズがあるが、地域ごとに書きぶりがバラバラなような気がする。また、小さな拠点とネットワークについて、明記している地域と明記していない地域がある。これについて、共通理解はあるのか。

事務局：地域のキャッチフレーズ部分については、前期基本計画を基準に地域で検討し決定されたものである。小さな拠点については、西和良や石徹白など先進的に取り組んでいる地域について、コラム的に取り上げている。総合計画には、地域の特徴的な取り組みをピックアップして掲載しているため、小さな拠点とネットワークについて記載がない地域についても取り組みを行っていないわけではない。

委員：例えば高鷲地域について、前期計画では「長良川源流の里」となっていたが、「開拓の心を伝える」ということが付け加えられている。それには意図があると思う。他の地域もそれぞれ意図があると思うので、その意図を教えてもらいたい。

事務局：高鷲地域については、前期計画中に「高鷲開拓記念館」が開館しており、その心を

大切に育んでいきたいという願いから、文言が追加された。大和地域については、「古今伝授の里大和」に「みんながつながり 広がる」という文言が追加された。地域において「ひまわりプロジェクト」のような特徴的な取り組みを行っており、そういった活動を表現したものである。

委員：一般市民は「長良川源流の里たかす」と言ってもらった方が分かりやすい。大和地域にしても、「みんながつながり広がる」というのは、どこの地域でも共通することである。わざわざ長くして分かりにくくしている気がするが。

会長：この件はご意見として承る。

委員：目標7方針2施策1の職員の人材育成と働き方改革の推進について、女性職員の活躍の推進とある。総合計画は最上位の計画であるが、男女共同参画の計画等下位に位置づく計画に、例えば市の女性管理職の数等について言及があるのか、またはそういう余地があるのか知りたい。

事務局：関連する個別計画の欄に記載があるが、「第二次女性活躍推進法に基づく郡上市特定事業主行動計画」を定めている。これには女性活躍のための具体的な計画が記載されており、女性管理職の割合を目標として掲げている。

委員：目標1方針2施策3の目指す姿について、「あらゆる世代が山に関わりを持ち」とあるが、少しハードルが高すぎるのではないかと思う。また、目標1方針3施策1の冒頭に「郡上市産業支援センターを核として」とあるが、行政としてはセンターがメインと考えているのかもしれないが、私の認識ではセンターを核として活動というのは疑問に感じる。どのように考えているのか。

事務局：1点目の「あらゆる世代が山に関わりを持つ」という表現について、施策3の本文には「子どもから大人まであらゆる世代に山に関心をもってもらう」とある。取り組みにおいて、「木育の推進」から「森林技術者の育成」まで、子どもから大人までというところを「あらゆる世代」と表現している。商工施策については商工課や商工会で取り組んでいただいているところであるが、いろいろな団体や部署が参加し横展開を行っていくために産業支援センターが作られた。産業支援センターについては、現時点では十分に機能が果たせていない状況があるが、市としてはセンターを調整機能として施策を進めていきたいという思いから「核」という表現をしている。

委員：「核」というよりは「ハブ」的な表現がいいのではないか。

事務局：組織の調整や団体間の連携としては「ハブ」としてということであるが、ワンストップ相談窓口など実務も担っている。これまで例えば移住者であれば交流移住推進協議会に行き、その方が起業したいとなれば市の商工課や商工会に行くということがあったが、今後はセンターが核となってまとめる中でそれぞれとつないでいくという役割を担っている。そういう意味を込めている。

委員：1つ目の意見について、「あらゆる世代が関りをもつ」ではなく「あらゆる世代を対象に」という表現の方がよいと思う。

委員：目標1方針3施策1の主な取り組み「市内企業等への支援」の中に「商工会が実施するビジネスマッチング等への支援」とあるが、他のところに商工会という表現がなく、商工会がビジネスマッチングしかしていないような印象を受ける。また、郡上市が商工会のビジネスマッチングにしか支援をしないような印象も受けるかもしれない。郡上市商工会は、様々な活動を行っており、また郡上市からたくさんの支援を受けているので、「経営支援を行う商工会への全面的な支援」というような書き方をした方がよいと思う。

事務局：市は全体的に商工会と連携しながら事業を実施しており、わかりやすさから特筆してビジネスマッチング等としている。

委員：ビジネスマッチングを特筆する必要はないと思う。ビジネスマッチング自体のやり方も変わってきており、マッチングの成立も少なく、今後5年間の計画に記載されるべきものではないと感じるので、精査していただきたい。

事務局：この部分の表現については、商工課と協議し修正させていただく。

委員：全体のフォントについて、見やすいゴシックに統一されているが、ところどころ明朝体も見受けられる。また、地域振興の部分が丸ゴシックとなっているが、ゴシックに統一するとよい。

事務局：文字のフォントについては、今後統一させていただく。

委員：目標6地域振興の和良地域の重点2に「高齢者の移手段の確保」とあるが、前回の部会においても巡回バスの見直しが話題となり、バスの廃止を危惧するところであったが、計画に盛り込まれてよかったと思う。巡回バスについては利用者も少なく現状が良いとは思っていないが、デマンド運行も含めよりよいあり方を今後検討してもらいたい。

事務局：公共交通については、今年度から検討に入り、令和5年度からを計画期間とする「(仮称)郡上市地域公共交通計画」を策定する。現行の「公共交通網形成計画」は令和4年度までとなっており、次期計画の策定に向け課題の洗い出しを行っている。このことについては、目標2方針4施策5の「公共交通の維持・利便性向上」として記載している。

委員：目標1方針2施策3の指標である林業就業者数(時点)について、現状値161人に対し目標値が160人と低くなっている。これは郡上市の人口が減少により、このままでは減ってしまうことを何とか抑えようということなのか、機械化等により人を減らそうという意図なのか。

事務局：林業就業者数については、年々減少している現状があり、それを何とか現状維持したいという目標となっている。

会長：他の意見がなければ、本計画について、今後若干の修正は行われるということであるが、この案で了承いただけるということによろしいか。

委員：異議なし。

会 長：協議事項（１）については、全会一致で承認させていただく。

（２）答申（案）について

会 長：市長への答申（案）を資料１のとおり作成した。この案について意見を求める。

委 員：新型ウイルスによる感染症、新型コロナウイルスによる感染症という表記があるが、WHO では新型コロナウイルスとは言っておらず、「COVID-19」を正式名称としている。どちらでもいいと思うが、検討の上表記されたい。

事務局：一般的には新型コロナウイルス感染症というのが浸透しているので、(COVID-19) という記述を追記させていただきたい。

会 長：市民へのわかりやすさという点からは、カッコ書きで併記することがよいと思うので、そのように変更したい。

委 員：５.自治・まちづくりの「次代の担い手となる人材育成の取組みを積極的に進められたい。」というところについて「担い手・作り手」としてもらいたい。ただ担うだけでなく、作り上げる人材をぜひ育ててほしいと考える。

事務局：その方向で検討したい。

委 員：本文２段落目「とりわけ～」の文について、主語と述語が合っていないと思うので、２文に分けるなど修正されたい。

事務局：ご指摘のとおりなので、検討し修正させていただく。

会 長：答申案について、今ご指摘のあった点については、私と事務局で責任をもって修正するが、この内容で答申することとしてよろしいか。

委 員：異議なし。

会 長：協議事項（２）については、全会一致で承認させていただく。

会 長：最後に学識経験者として審議会に参加された海道先生に、会に参加されての思い、またご指導等があれば伺いたい。

海 道：各分野で熱心に協議していただいた。本日は最後の会議ということであったが、最後まで活発に意見が出された。審議会の場合だけでなく、職員も意見を起草委員会に持ち帰り協議し、回答されるなど丁寧に対応されるということが印象的であった。私は他市でも総合計画審議会に関わっているが、ここまで目を配って、心を配って作成するという計画はなかなかない。また、今回の総合計画、後期基本計画の中で、SDGsを各項目に反映させているが、これからの社会に総合計画が生かされると思う。さらに、小さな拠点とネットワークは、広い面積を持ち、合併によってできた郡上市で、これからのまちづくりにおいて重要なテーマとなると考える。それぞれの地域でモデル的に進めていくということであるが、素晴らしい取り組みになっていくのではと思う。今回計画策定の背景には、将来の郡上市がどうなっていくかという危機感があったと思う。答申案にも書かれているが、新型コロナウイルス感染症は社会に大きな爪痕を残した。これまでの地域や組織で弱いところによりダメージを与えた。人口減少や出生率低下に現れているが、そういう風にならないように今後どう対応して

いくか。また、こういう機会をダメージとしてだけでなく、うまく対応できれば長いスパンで持続可能で強い地域となる。一方的にダメージを受けるだけか、それに対応しより強くしなやかになるかの分かれ道であり、それが今問われている。総合計画が郡上市、地域にとっての灯台になり、希望になればと思う。この計画をぜひ具体化し、実りある成果を得られるよう頑張ってください。

会長：来週副会長とともに市長に答申を行う。その際に、会長として市長にご意見を申し上げたいことがある。私自身、総合計画審議会を3回経験させていただき、総合計画を行政職員が審議会委員と一緒に作り上げるという形が進展してきたと感じる。この総合計画は行政計画であるが、一方で市民はどうなのか。郡上市住民自治基本条例の前文に、「私たち市民、議会及び市長等が、それぞれの役割を担い、人と人とのつながりを大切に協働によるまちづくりを進める」とある。また、今回の答申の総括的事項の「市民主体のまちづくりを推進すること」の中にも「総合計画に掲げる将来像の実現には、行政としての取り組みはもとより、市民一人ひとりの活躍が欠かせないことから、行政と市民との役割の明確化と市民協働により、市民が主人公となったまちづくりを推進されたい。」という意見を入れている。以前の総合計画は地方自治法に定めることを義務付けられていたこともあり、百花総攬的にすべての項目を記載していたが、いまだにそのような総合計画になってはいないか。そのために市民に分かりにくくなっているのではないかと感じる。行政の縦割り分野ごとの計画ではなく、人・モノ・コトなどの分類にした書き方もあると思う。その中で市民にはこういった役割を担ってもらおうということが書かれていてもいいのではないか。そのようなことを会長個人として市長に話したいと思うので、ご承知おきいただきたい。

事務局：これまで長きにわたってご議論いただいた。本計画は行政が作りご意見をいただくということだけでなく、最初の段階から一緒に作り上げていけないかということで、総合計画策定のたびにやり方を変更している。前回の審議会の部会にはグループリーダーのみが参加したが、今回は起草委員全員が出席した。異動等で経験の浅い職員もおり、質問に即答できない点については持ち帰り、後日回答させていただくことがあった。また、皆様からの意見書についても起草委員会や担当課において協議し回答させていただいたが、意図がずれて何度もやり取りするようなこともあった。そういったことも、職員の資質向上につながるのと事務局の思いもあった。すっきりいかなかった面もあるかとは思いますが、こうしたやり取りを通じて今回の総合計画案がまとまったことについては、事務局として感謝申し上げるところである。

#### 4. その他

- ・市長への答申：令和4年7月5日
- ・パブリックコメント：令和3年7月9日～7月28日

5. 閉会 15:00

※山下副会長